

防腐薬剤処理木材の耐用年数は何年なの？

林産試験場 性能部 構造・環境グループ 小林 裕昇

研究の背景・目的

国や北海道は、公共工事による社会資本ストックに対して効果的な長寿命化を図るため、予防保全に基づいた維持管理計画の策定を進めています。

この予防保全の実施には、対象となる構造物の耐用年数を把握することが重要です。そこで屋外木質構造物の耐用年数を明らかにする目的で、防腐薬剤処理木材を使った道路構造物の劣化調査を行い、維持管理業務で求められる「耐用年数」を推定する式や維持管理フローの作成を行いました。

研究の内容・成果

【経年劣化と残存する強度および経過年数の関係から、耐用年数を推定】



木製立入防止柵



目視による被害度判定



ピロディンの打ち込み
深さ(Pe値)の測定



回収した部材の強度試験

【測定データと耐用年数推定式から予防保全を行うための維持管理フローを作成】

